

★ 特集：次代の職人をいかにして育てるか ★

インタビュー

訓練生にとって ベストな環境を整えてあげる

住友林業建築技術専門学校 樋口 進 校長に聞く

建設業全体で職人不足が大きな問題となる中、メーカーが責任を持って独自に職人を育て上げる企業内訓練校が注目されている。特に、左官分野で養成訓練の取り組みをスタートさせた住友林業建築技術専門学校は、近年、技能五輪大会でも優秀な成績を収めている。

本稿では、同専門校の左官養成訓練について樋口進校長に話を伺った。
(編集部)

メーカー品質の施工を行うために

——技術専門校の設立経緯について教えてください

住友林業独自の材料や工法を研究開発していく中で、品質が十分に満たされているのか。そして、協力施工店に施工を発注する中で、工事費がお客様にとって適正価格であるのか。そうした適正な価格と品質を検証し、お客様に提案していくため直営の工務店が必要ということになりスミリン建設(株)が設立されました。当時(1980年代後半)はバブルの時期で職方がいない。それなら自社で職方を育てればよいと、直営工務店の設立から1年後に専門校を開校させ、住友林業が求める技術はもとより社会人としての心構えなどの基礎の部分を1年間という時間をかけて、しっかりと身につけてもらうことになりました。

各地域で独立していた16社のスミリン建設は、現在、住友林業ホームエンジニアリング(株)という会社に統合合併し、全国15事業部、2事業所を展開しています。専門校では全国の事業部に入社した社員を訓練生として預かり、お客様に安心して提供できるメーカー品質の施工を行うための訓練を行っています。

——専門校が設立されてどれくらいですか

開校して37年になります。バブル時代は職人の数が足り



▲お話を伺った樋口校長(中央)と訓練部課長の遠藤公紀さん(右)、事務局係長の飯生千鶴さん(左)



▲入校した訓練生は、左官の基本である壁を平滑に塗ることを覚える。訓練のポイントは塗る速さではなく、仕事の精度を求めていく。

ず、大工養成訓練からスタートし70名の訓練生を受け入れていましたが、バブルも終わり職方の人数も潤ってきた時代は35名程度。その後、高齢化による職人不足もあり、11年ほど前からは60人体制に戻して、それでも職方が足りずに現在は104名を受け入れています。

当社は、木軸構造の施工がメインとなるため、現場施工では職人の技術に委ねることが大きく、職方がどうしても